資料１
令和５年（2023年）11月２日
障がい者自立支援協議会

各部会報告資料

・子ども部会（P2-12）
・就労部会（P13-14）
・相談支援部会（P15-16）
・精神障がい者地域移行支援部会（P17-19）

こども部会活動報告（令和５年度第２回）

１　部会の目的

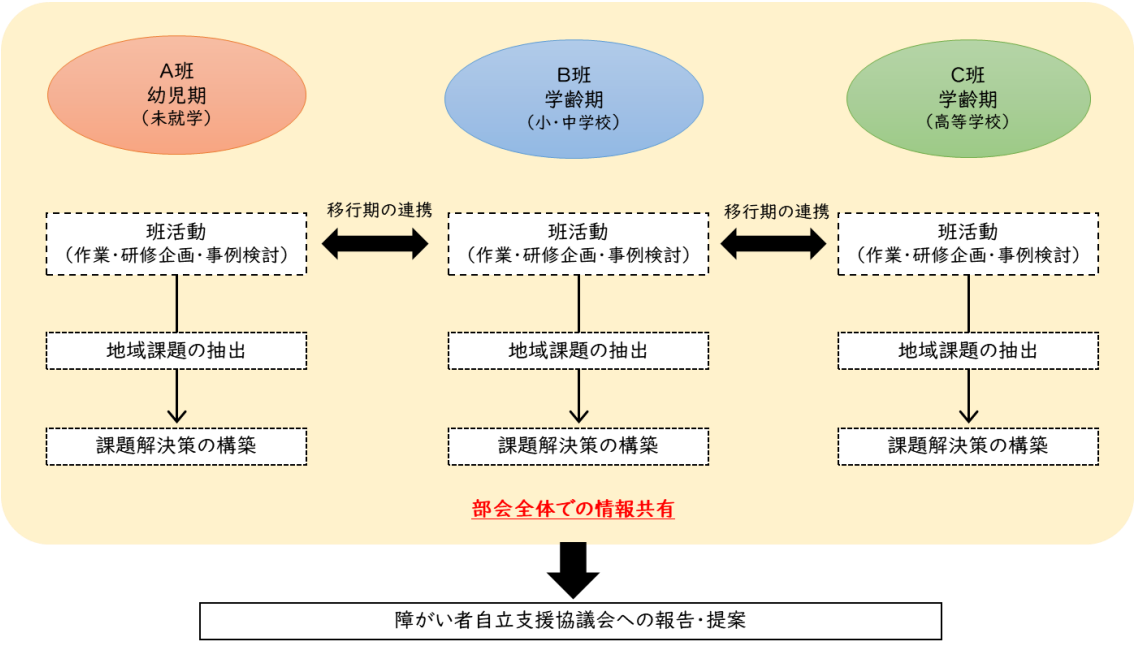
障がい児の支援について、関係機関等が情報交換を行いながらネットワークの構築を図るとともに、課題の整理や解決策の検討、社会資源の共有を図る。

２　令和５年度の運営体制

ライフステージに応じた班体制を引き続き維持する。

また、毎月の部会開催前に運営委員会を開催し、当月の進め方や各班の進捗管理等について情報共有や意見交換を行う。

※運営委員会（第 3 月曜日）、部会（第 4 火曜日）



３　令和５年度の取組実績（令和５年９月末時点）

（１）取組内容

①　Ａ班（未就学児が主な対象　※移行期の連携も含む）

テーマ：相談の場、福祉サービスにつながるまでの空白の時間の課題整理と対応

（令和５年度取組予定）

①各所の役割の共有と整理 ②児童発達支援に関連する用語の整理 ③保護者の相談の場の検討

（令和５年度取組実績）

・こども発達支援センターをはじめ、各所の役割についての確認共有 ・事業所ごとの支援課題および地域課題の検討 ・児童発達支援に関連する用語の洗いだし、各区役所の保健こども課で使用されている案内の収集および内容確認、保護者意見の共有

②　Ｂ班（小・中学生が主な対象　※移行期の連携も含む）

テーマ：アンケート結果をふまえ、課題抽出と啓発を行う
余暇支援マップの見直しやリーフレット配布を通して情報発信を行う

（令和５年度取組予定）

①アンケート結果をまとめ、自立支援協議会本会議を報告 ②余暇支援マップの見直し

（令和５年度取組実績）

・令和４年度実施のアンケート結果のまとめ ・余暇支援マップ作成のための情報収集およびその方法についての検討 ・余暇支援マップの書式検討

アンケート調査結果報告

【対象者】熊本市内在住で障がいのあるこども又は支援が必要ではと感じているこどものご家族

【回答期間】令和４年 7 月 14 日～9 月 16 日

【回答方法】Google フォーム

【回答数】167 件

※詳細は別紙『令和４年度子ども部会Ｂ班アンケート調査結果』参照

③ Ｃ班（高校生が主な対象　※卒業後の課題も含む）

テーマ：アンケートを通して見えてくる現状からの在学中、卒業後の生活支援と課題について

（令和５年度取組予定）

①学校アンケートの継続と啓発活動について ②移行支援シートの見直しと活用について ③特別支援学校卒業後の実態調査について

（令和５年度取組実績）

・熊本市に在する高校に対し、障がいのある生徒へのサポートについてアンケート調査を実施（R4.8.8～8.31） ※回答データについては現在集計中 ・移行支援シート改善のための意見交換

（２）振り返り

今年度のこども部会はすべて対面にて開催しており、アンケートの考察および新たな調査の検討、実施など、すべての班がより活発に活動できた。昨年度のアンケート調査や、部会参加者が見聞きした保護者の声などから、より市民ニーズに則した課題を抽出できており、こどもの療育に関わる多くの人に各種情報を提供できるようになると期待される。

今後は情報の精査やそれをまとめた制作物についても力を入れていくとともに、情報提供の仕方、広報の仕方などについてもより一層の協議を深めていく予定としている。

令和４年度子ども部会Ｂ班アンケート調査結果

R4 年度　こども部会Ｂ班

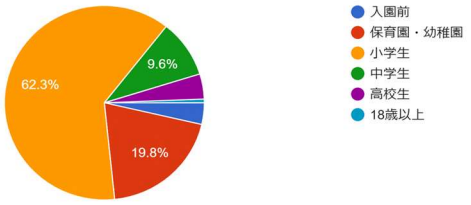
調査実施期間：令和４年７月 14 日～９月 16 日

対象者：熊本市内在住で、障がいのあるこども又は支援が必要ではと感じているこどものご家族

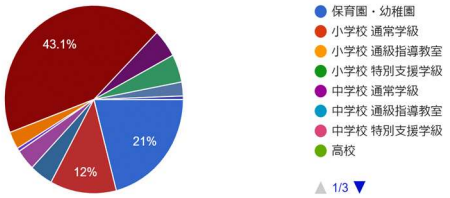
回答数：167 件

【基本情報】

1.こどもの年齢層

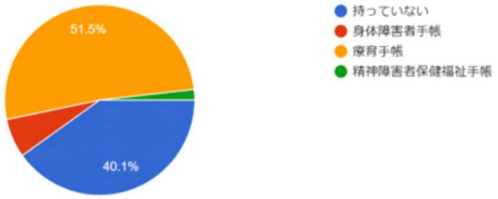


2.通っている学校やクラス形態

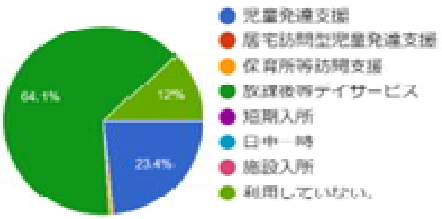


3.診断の有無

4.手帳の有無



5.利用サービス



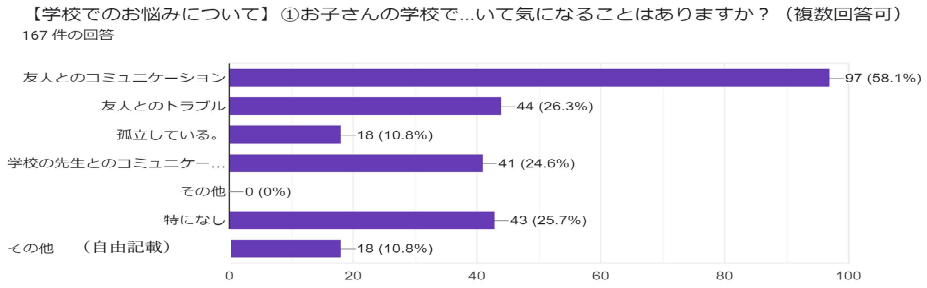
6.利用手続きをする上で困ったこと

・事業所探しが難しい（26%）
・相談先が分からない（17%）
・情報を早めに知りたかった（16%）
・利用までの流れが分からない（11%）
・事業所の体験等の調整（6%）

※以下複数回答あり

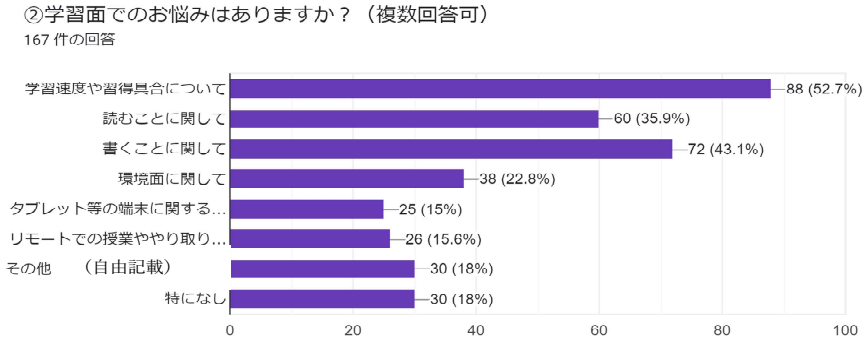
【学校での悩みについて】

1.対人関係



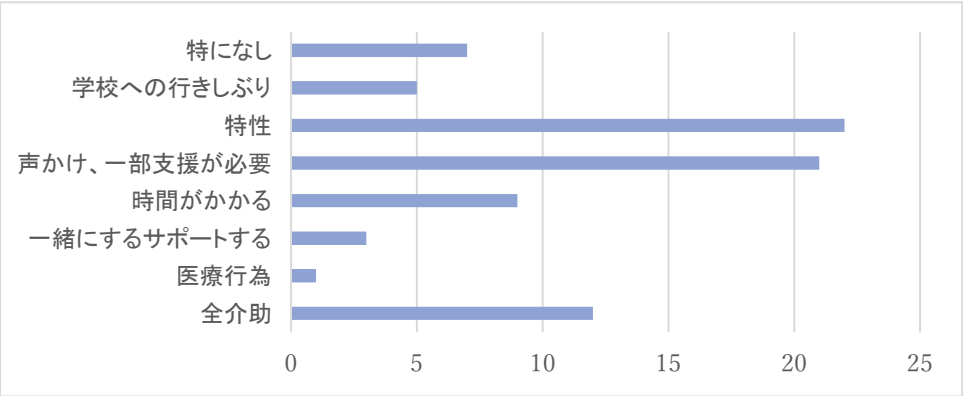
（自由記載より抜粋）
こどもの障がい特性の理解についての悩みが挙げられている。

2.学習面

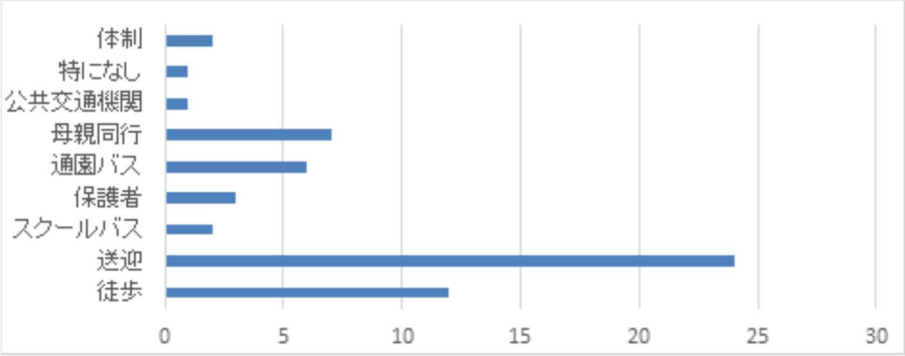


（自由記載より抜粋）
こどもの学習意欲についての悩みが挙げられている。

3（1）.通学準備

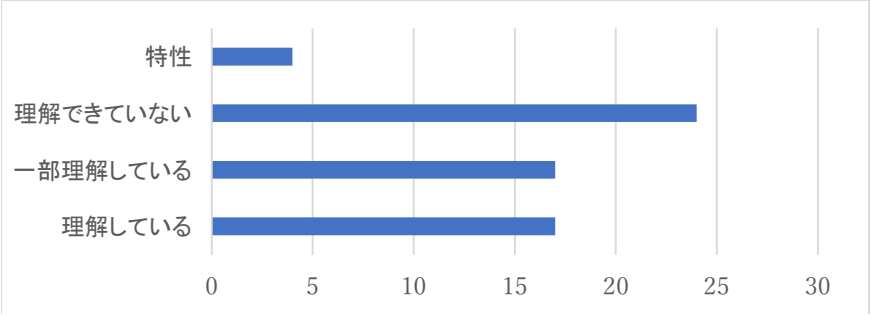


3（2）.通学手段

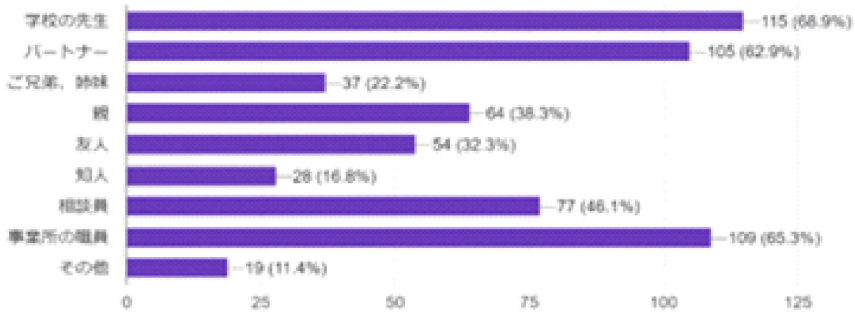


自力で登校されるのは「公共交通機関」「徒歩」のみでほとんどの方が通学に支援を必要としている。

3（3）.交通ルールの理解

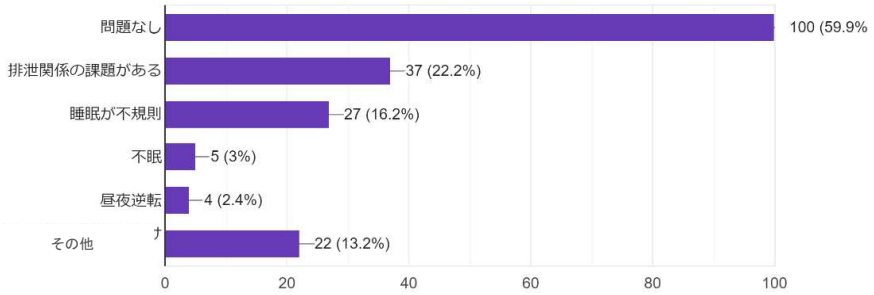


4.学校の事での相談相手



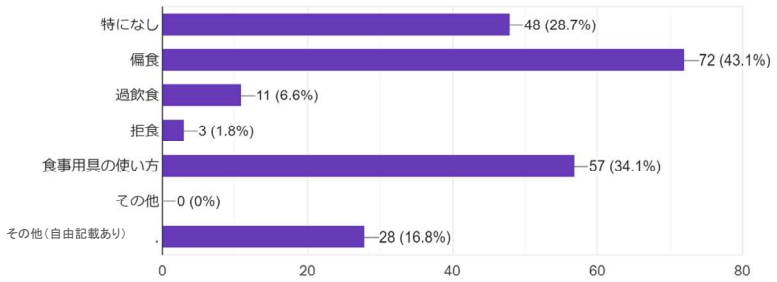
【家庭での悩みについて】

1.睡眠



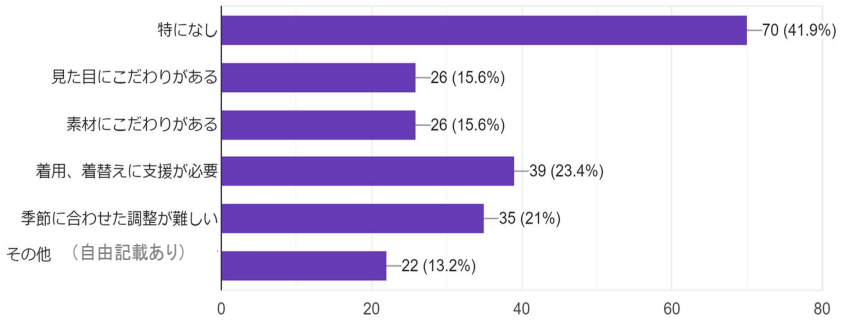
その他寝入りに時間がかかる、睡眠時間についての悩みが挙げられている。

2.食事



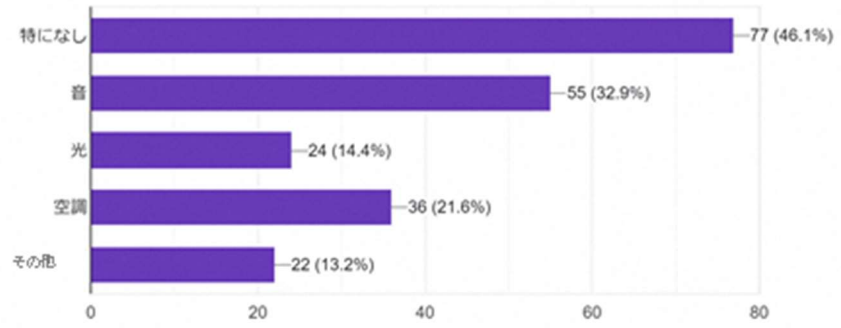
その他食事内容や摂取量についての悩みが挙げられている。

3.衣類



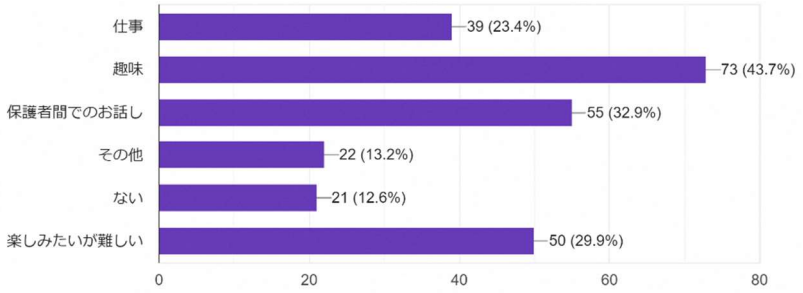
その他衣類の拘りについての悩みが挙げられている。

4.環境

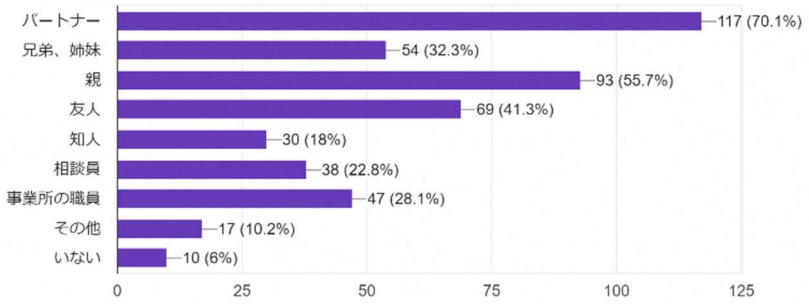


その他刺激に対する配慮についての工夫について挙げられている。

5.子育て以外の楽しみ

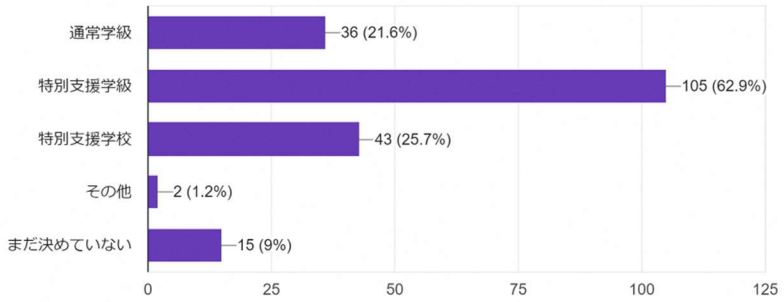


6.家庭の事での相談相手

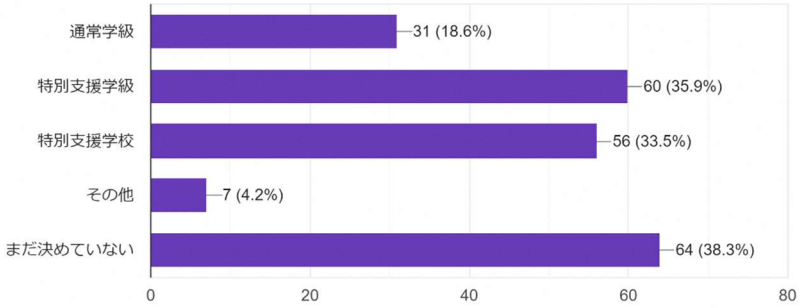


【将来での悩みについて】

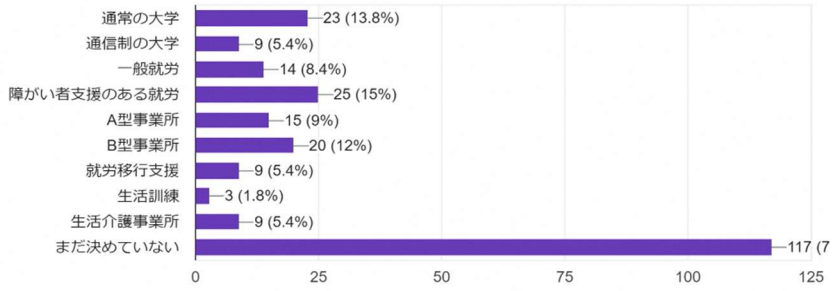
1.小学校の進路先（検討中を含む）



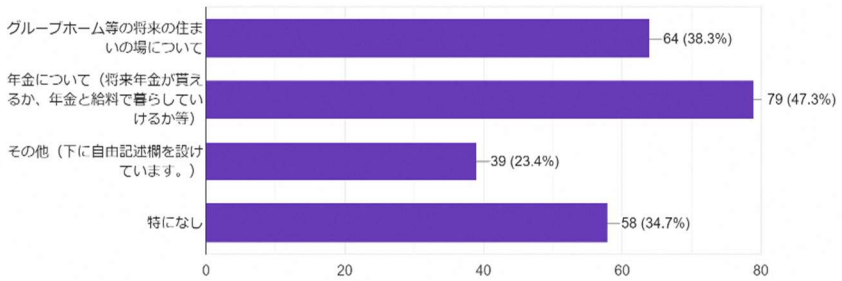
2.中学校での進路先（検討中を含む）



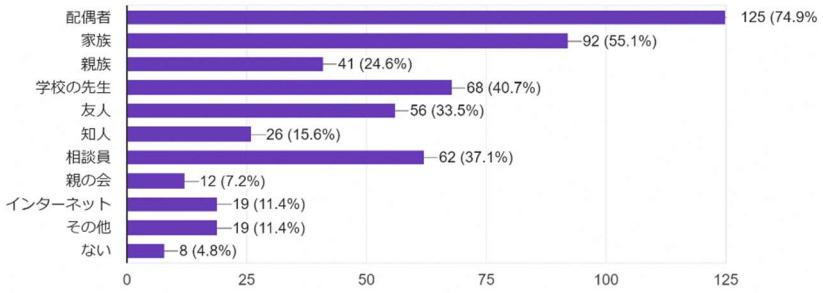
3.高校卒業後の進路先（検討中を含む）



4.暮らしについての心配事



5.将来についての相談相手



＜アンケートへの所感＞

アンケート作成経緯として、こども部会メンバーが支援をしている中で学校の送迎について負担を感じているご家族が多いのではないかという意見が挙がり、実態調査としてアンケート作成を行う事となった。

アンケートを作成する中で、移動についてのみ実態を把握するのではなく、障がいのあるこども又は支援が必要ではと感じているこどものご家族が抱えているニーズを全般的に把握してはどうかと意見が挙がり、生活面や将来についても焦点を当てた質問項目となっている。

結果として、移動、特に学校への登校について、時短勤務への変更や退職など勤務形態に制限がかかる等大きな負担を感じている家族が多くいる意見があり、今後はより内容を精査して現状を浮き彫りにし、課題の解決に向けた方策も提案できるよう検討を進めていく。

＜課題と提案＞

【基本情報】6.利用手続きをする上で困った事

〇現状および課題

手続きの流れが分かりにくい。市役所の担当者から渡されるサービス事業所の資料も見づらい。事業所の特色などの情報がよく分からない。

〇提案

・KP5000 の活用。検索など KP5000 の機能を充実させることを検討する。

・サービスの利用までを分かりやすく示したフローチャートの作成。

・親同士の交流の場について情報提供、企画。

【学校での悩みについて】3-(2).通学について

〇現状および課題

通学に関するご家族の負担　※以下、意見抜粋

・お布団からバギーに乗せる→バギーで玄関ぎりぎりまで移動→それから抱っこして車に乗せる。その一連の動きが大変です。

・娘を支援学校通学バスに乗せる時間まで毎日親を頼っていた。しかし、親も高齢のため継続が困難になった。民間のタクシー利用は心配。退職を迫られている。

・通学時間が普通学校に比べて遅い時間（普通学校は概ね 7 時半～8 時半登校だが、支援学校は 8 時 50 分～9 時 10 分登校）であることから、仕事との調整が難しく、時短勤務を余儀なくされている。

〇提案

・他の自治体が実施しているケースで、朝 7：30 頃ご家族が事業所へ送迎し、事業所が学校に送り届けることをサービスの提供時間としていたり、移動支援の対象に学校への送迎を対象としていたりする例（佐賀県伊万里市、天草市）もある。そのような取り組みを参考にし、熊本市でも取り入れる事はできないか。

・日中一時支援の活用に加え、事業所に送迎に対する報酬や利用者負担をつけることで対応できないか、

・子育て世代の支援を目的に、自宅と習い事先・学習塾・児童育成クラブ等までの間を複数の児童が乗り合わせ、それぞれの場所に送り届ける実証実験「チョイソコくまもとキッズ」の取組に合わせる形で、朝の送迎だけでも取り入れることができないか。

・ファミリーサポートや障がい者サポーターを活用し、送迎のサポートができないか。

就労部会活動報告（令和５年度第２回）

１　部会の目的

『障がい者の「地域で働きたい」を実現させる』を目的として、熊本市における就労支援の課題とニーズを知り、その解決策を考え、よりよい就労支援を目指す。

２　令和５年度の取組

（１） 運営体制

4 つの班構成（企業就労班、福祉就労班、くまもと DX 班、当事者対話班）で各班作業に取り組んでいる。毎月の部会開催後に運営委員会を開催し、翌月の進め方や各班の進捗管理等について情報共有や意見交換を行う。

（２）運営委員会開催状況

原則、毎月第 2 木曜日にオンライン（Zoom）開催しており、各班の代表者が集まって、部会の進め方等につい意見交換を行っている。

（３）部会の開催実績

原則、毎月第 1 木曜日に開催しており、ミニ研修等と班活動を実施している。

	内容	参加人数
4 月 6 日(木)	1　熊本市障がい者自立支援協議会就労部会について 2　班活動（年間計画の作成、就労フェア準備）	67 名
5 月 11 日（木）	1　ミニ研修 「障がい者就労マッチングサイトがめざすもの･･･」 2　班活動	57 名
6 月 1 日（木）	1　市報告 「障がい者への就労支援の先進事例」 2　班活動	59 人
7 月 6 日（木）	1　ミニ研修 「障がいのある人の 働く のこれから」 2　班活動	56 名
8 月 3 日（木）	1　ミニ研修 「熊本県地域生活定着支援センターの事業内容について」 2　班活動	54 名
9 月 7 日（木）	1　ミニ研修 「スタッフサービス・クラウドワークの取組について」 2　班活動	59 名

（４）各班の取組

①企業就労班

＜企業就労グループ＞

（目標）・障がい者の一般企業への就労の可能性を広げる取り組みと啓発活動

・サポート企業・団体の啓発

・企業への雇用受入れの周知・啓発　　・「しごといく」の作成 ・サポート企業の啓発

＜定着支援グループ＞

（目標）地域で安心して末永く働き続ける為の情報の収集と発信

・一般就労後の定着に関する検討（企業との連携）

②福祉就労班

＜事業所支援グループ＞

（目標）・利用者支援についての質の向上を図る

・就労支援事業を取り巻く様々な問題について、意識や学びを深める

・事業所における支援や環境等に関する困り事の共有・整理

＜工賃向上グループ（もちっとはいよ班）＞

（目標）工賃向上をベースとしてＡ型、Ｂ型、新規開設事業所、老舗事業所、GH 等それぞれの目線から障害福祉サービス事業所の課題を整理共有し、解決策を検討する。その課題と解決策（案）を熊本市に提言し、行政機関と共により良い熊本市の障害福祉サービス事業所づくりに取り組む

・事業所における事業収入を増やしていくための検討

③当事者対話班

（目標）・「当事者」と「企業」の思いの違いを知る（働き方、働き続ける為に必要なこと）

・「家族」と「働く」の関係性を知る

・当事者の視点から就労に関する悩みや提案を検討する。

④くまもと DX 班

（目標）在宅就労や DX などの新たな働き方への見識を深め、実態を把握する。

・在宅就労やデータ作業等が推進されている社会状況を踏まえ、障がい者雇用の可能性を広げていくために、新しい働き方を検討する。

４　その他

例年実施している「就労フェア」を令和６年２月に開催予定。※内容は検討中

相談支援部会活動報告（令和５年度第２回）

１　部会の目的

相談支援事業を行う事業者等が情報交換を行い、課題の整理や解決策の検討、社会資源の共有・開発、相談支援事業者のスキルアップに向けた取組等を行うもの。

２　令和５年度の取組

（１）運営体制

運営委員会のメンバーを３つの班（スキルアップ班、地域課題班、社会資源班）に分け、各班で整理した課題をもとに検討した企画を全体会において実施。

毎月の部会開催前に運営委員会を開催し、当月の進め方や今後のスケジュール等について情報共有や意見交換を行う。

（２）取組内容

月毎に企画の担当班を割り当てて、部会を進行。

① スキルアップ班

・計画相談支援事業所の連携、相互支援
・実施プロセスの標準化を図り、計画相談支援の促進

② 地域課題班

・個別のニーズや課題を踏まえて個別の支援や課題解決の検討
・個別のニーズや課題から地域課題の抽出

③ 社会資源班

・地域の社会資源を収集、整理
・社会資源の情報の共有

【部会の実施内容】

	部会内容等	場所
5 月 18 日	① インフォメーション ② 発達障がい者支援センターみなわの活動報告と連携事例 ③ 令和５年度の相談支援部会の活動について ④ 班活動・全体共有	東部公民館ホール
6 月 20 日	① インフォメーション ② 障害者虐待防止法について ③ 班活動・全体共有	西部公民館ホール

7 月 18 日	① インフォメーション ② 班活動・全体共有	青年会館 ホール
8 月 15 日	① インフォメーション ② 全体研修（担当：社会資源班） ・熊本保護観察所 ・熊本県地域生活定着支援センター	東部公民館 ホール
9 月 19 日	① インフォメーション ② 班活動・全体共有	青年会館 ホール

※部会：毎月第３火曜日１５時～１７時

※運営会議：毎月部会前１３時半～１４時半

（３）今後の予定

10 月　班活動

11 月　研修会（担当：地域課題班）

12 月　班活動

1 月　班活動

2 月　研修会（担当：スキルアップ班）

3 月　班活動、年度振り返り

精神障がい者地域移行支援部会活動報告（令和５年度第２回）

１　部会の目的

「入院医療中心から地域生活中心へ」の基本理念に基づき、精神障がい者の地域移行に必要な地域体制の整備を図るとともに、地域の関係者が連携して退院に向けた支援を行うことにより、精神障がい者が地域で安心して生活することができるよう地域移行及び自立を推進することを目的とする。

２　令和５年度の実施状況

① 運営体制

精神障がい者地域移行支援部会を「全体部会」とし年４回開催し、区毎の連絡会を「区部会」と位置づけ、地域（区）の課題抽出、具体的な計画・取り組み、顔の見える連携づくりを目的に年３～６回開催を計画。

その他、コアメンバーによる会議を毎月開催。運営事務局としての役割を目的として事業の年間計画や方針等を決定し全体部会や区部会への働きかけや周知を行っている。

② 取組内容

１、全体部会

熊本市内精神科病院、基幹相談支援センター、一般相談支援事業所、ピアサポーターが参加し、全体部会を通しての普及啓発と地域移行支援についての意見交換を行っている。

６月１４日　第１回全体部会開催（出席７８名、ZOOM 開催）

内容　・事業説明、年間計画
・地域移行支援基礎研修
・各区部会の報告
・グループでの意見交換

９月１３日　第２回全体部会開催（出席６６名、ZOOM 開催）

内容　・各区部会の報告
・精神障がい者地域移行支援アンケートの結果共有
・ピアサポーター活動概要（事前収録済み録画の放映）
・グループでの意見交換、感想共有

２、区部会

今年度は地域移行支援の普及啓発の一環として個別給付件数の増加を目標とし、各病院より 1 事例ずつ挙げていただけるよう働きかけを行っている。区部会内では進捗状況や、地域移行支援の事例となる可能性のあるケースについての情報共有を行っている。

区部会開催状況は別紙資料１参照

３、コアメンバー会議

毎月コアメンバーが集まり、全体部会の企画運営、計画や方針の決定、区部会運営状況の把握と取組への助言を行っている。

参加者は部会長、副部会長、地域体制整備アドバイザー、こころの健康センター

３　今後の取組予定

１、全体部会

第３回目を１２月、第４回目を２月に予定。

今後も地域移行の普及啓発に向け、働きかけを行っていく。

２、区部会

各区年３～６回の開催を予定。

既に１～２回が終了しているが、今年度の目標である個別給付件数増加については今後も区部会内で情報共有を継続しつつ、普及啓発を進めていく。また、11 月の中央区部会内に広域アドバイザーが参加し、地域診断を実施予定。

３、コアメンバー会議

・全体方針や計画を検討し、区部会と連携しながら事業の促進と浸透を図る。

・全体部会の企画調整、運営を行う。

令和5年度　地域移行支援事業区部会報告

資料1

◆区部会開催状況、個別給付状況

	開催状況	参加者	個別給付件数等	
中央	2回（5/30、8/22）	医療機関(3)、相談支援(基幹2、一般2)、区役所(福祉課、保健子ども課)、AD、こころの健康センター	支援中：1	・50代女性、令和5年5月頃から体調悪化、令和5年7月イレウスにて入院、本人より地域移行支援延長の意思があった為支援継続。まずは体調回復を優先している。
東	１回（7/12）	医療機関(4)、相談支援(基幹2、一般2)、区役所(福祉課、保健子ども課)、AD、こころの健康センター	支援中；1	・30代女性、精神科病院からの退院希望あり、地域移行に向けて支援中。 ・１件、導入に向けて９月上旬で面談を行うも、ご本人からは半年～１年くらいかけてゆっくり進めたいとの希望があり、現在調整中。
西	3回(4/17、5/29、6/13) ※6/13研修開催	医療機関（２）、相談支援（基幹１、一般１）、区役所（福祉課、保健子ども課）、こころの健康センター、ＡＤ、GH（8）、実習生	0	・当初予定していたケースが病状悪化から転院となり繋がらず。 今後、区部会において選定基準などの確認も再度行っていく。
南	2回（5/24、8/29）	医療機関（3）、相談支援（基幹2）、区役所（福祉課、保健こども課）、AD、市こころの健康センター	申請中：1	・60代男性、統合失調症・知的障害。10年ほど身体疾患を理由に入退院を繰り返しているケース。本人より退院を希望され、後見人に相談し個別給付申請へ。9/7に区役所で調査が終了した。
北	１回（6/28）	医療機関（3）、相談支援（基幹2、一般2）、区役所（福祉課、保健こども課）、AD、市こころの健康センター	支援中：1	・50代男性。再犯歴のある方。単身生活移行に向けて支援中。